

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25年 5月 30日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320060

研究課題名（和文） フランス啓蒙思想における〈戦争〉表象と〈平和〉表象の包括的研究

研究課題名（英文） A comprehensive study of the representations of War and Peace in the French Enlightenment.

研究代表者

佐藤 淳二（SATO JUNJI）

北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30282544

研究成果の概要（和文）：

フランス啓蒙思想における「戦争」と「平和」の表象は、理論的な著作と芸術表現形式において多様な形で現れるものであるが、われわれの共同研究は、これらの表象を包括的に研究した。とりわけ、ルソーとモンテスキューの政治理論に現れる主権概念は、「戦争」「平和」の表象の関係において、その意義の大きさが確認された。政治的な理論と表象を架橋するものとして、当時の「習俗」という概念が「統治性」の水準でもつ重要性について、研究を深めることができた。

研究成果の概要（英文）：

Various forms of representation of the War and the Peace are to be found throughout the French Enlightenment, not only in its so-called theoretical works but also in its particular forms of art and literature; the objective of our studies is set to deepening the comprehension of these representations. It is remarkable to recognise significance of representations of the War and the Peace insofar as to comprehend the concept of sovereignty in the political theories of Rousseau and Montesquieu. Finally, we could clarify the importance of the concept of "*moeurs*" in relation to a no more important and crucial concept of "*gouvernement*".

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1800000	540000	2340000
2010年度	1700000	510000	2210000
2011年度	2100000	630000	2730000
2012年度	700000	210000	910000
年度			
総計	6300000	1890000	8190000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：フランス、啓蒙思想、戦争論、平和論、統治性

## 1. 研究開始当初の背景

本申請課題においては、近年喧しい「帝国」論を、「ホブズのモーメント」とでもよぶべき視点から見直すことを提案した。ホブズのいう「万人の万人への闘争」という戦争状態においては、いかにして暴力を抑圧するかとの問いかけが生じ、それが啓蒙の戦争論平和論の起源となったが、21世紀の国際関係がそのような状態に近づきつつあるという危機認識は、形を変えて、啓蒙の問題が復活したともいえる。いまだ先行研究が手薄な問題領域であるが、衛生や性のコントロールまで含めての「生」そのものが「統治」され動員されるという戦争・平和の問題から、「崇高」や「熱狂」という文学美学概念で表象される戦争表象に至るまでの総合的研究が要請されていた。

## 2. 研究の目的

「戦争状態」は、暴力の国家独占という近代固有の方法によって、少なくとも欧州域内では歴史的相対的に收拾される。そこで、フーコーが『社会を守らなければならない』などの講義録で問うたように、暴力と権力の正統化の問題が生じてくる。平和は、暴力を集中的に管理した時にのみ維持されたとしたのがホブズであるが、現在の「帝国」論が従っているのは、実はこのホブズのパラダイムである。本研究では、正統化そのものよりも、そこから派生的に生じてくる諸表象を連結させ、「理性」の諸実践とりわけ、フランス革命における「統治」の問題に集中的に現れるそのメカニズムを政治過程との連関において呈示する。また、サドやレチフあるいはラクロにおける「生」と「性」の管理・統治の表象を提示することを目的とした。

## 3. 研究の方法

ホブズとスピノザを軸とした「戦争と平和」の問題整備を、研究分担者の全員が参加して行い、さらに近年、欧米で盛んなスピノザの研究を取り入れるべく討議を重ねた。啓蒙主義との関係ではJ. イスラエルの『ラディカルな啓蒙』(Jonathan Isarel, *Radical Enlightenment; Philosophy and the Making of Modernity 1650-1750*, Oxford UP, 2002)、またスピノザ哲学ではP. マシュレーの注釈(PUF社から刊行された『エチカ』読解の全5巻本シリーズ, P. Macherey, *Introduction à l'Éthique de Spinoza*, I-V, PUF, 1997) はもちろんのこと、L.ヴィンチゲラの『スピノザと記号：粗造力の生成』(L.Vincigera, *Spinoza et le signe : La Genèse de l'imagination*, J.Vrin, 2005) などの近年の大きな成果である先行研究を検討し、さらにM.リュエフ(現ジュネーヴ大学教授)の「習俗」論などの最新の研究(Martin Rueff, « *Radicalement / Séparément. La théorie de l'homme de Jean-Jacques Rousseau et les théories contemporaines de la justice* », in J.Dagen, M.Escola, M.Rueff, *Morales et politique, Actes du colloque international organisé par le Groupe d'Étude des Moralistes*, Honoré Champion, 2005)を公開討論会で紹介し、詳細な検討を加えた上で議論した。

## 4. 研究成果

研究の主な成果：フランス啓蒙思想における戦争と平和の概念と表象を包括的に研究する課題であり、とりわけルソーの主権論と戦争法の関係、モンテスキューの法概念と国家観、戦争表象と崇高性の問題が包括的に研究できた。とりわけ近年内外で注目されている、ルソーの戦断片とよばれるテキストとルソーの主権論や法論との関係について、日本国内では先駆的な研究成果をあげることがで

きた（その内容は、ルソー生誕300年の国際シンポでの佐藤淳二の発表などによって公表された）。また、王寺・京大准教授は、この共同研究の成果の一部をディドロの戦争論として、18世紀研究者が集う国際18世紀学会の4年に一度の総会大会（2011年オーストリア・グラーツ市グラーツ大学開催）において発表し、大きな反響を受けた。その後、この分野での世界的権威であるフランスのブリュノ・ベルナルディ(Bruno Bernardi)を他機関他プロジェクトとともに招聘し、京都大学において、佐藤・王寺・増田・富永などの参加による公開の討論研究集会を持たせたこと、その際にベルナルディがわれわれの研究に対して示した強い関心ひとつをとっても、本研究課題が世界的水準に到達したと報告してよいであろう。さらに、モンテスキューならびにディドロとの比較、さらに同時代の永久平和論との思想史的コンテクストが研究され、これらの社会思想史政治思想史のみならず、文学的テキスト（モンテスキューもルソーも文学者でもあることはいまでもない）における戦争・平和の表象との関わりも包括的に研究された。成果を論集にして出版する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

主なもの

- ①佐藤淳二 「ルソーと共和主義の現在」(別冊情勢思想理論編第1号、155-174、2012年) 査読無
- ②佐藤淳二 「一般意志の概念を求めて」(現代思想、第40巻—13号、56-69、2012年) 査読無
- ③王寺賢太 「起源の二重化」(現代思想、第40巻—13号、86-101、2012年) 査読無

〔学会発表〕（計3件）

- ①佐藤淳二、ルソー生誕300年記念シンポ、「ルソーと開かれたもの」(フランス語による発表)(2012年9月16日、東京日仏会館)
- ②佐藤淳二、王寺賢太ほか、ワークショップ「政治と文学」、2012年日本フランス語フランス文学会春季大会、(2012年6月3日、東京大学本郷キャンパス、)
- ③王寺賢太 「戦争、規律訓練、愛国主義—『両インド史』による近代ヨーロッパの系譜学」(フランス語による発表のため標題は翻訳したもの)、国際18世紀学会オーストリア大会、(2011年7月28日、グラーツ大学 オーストリア国グラーツ市)

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

佐藤 淳二 ( SATO, JUNJI )  
北海道大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号 : 30282544

(2)研究分担者

富永 茂樹 ( TOMINAGA, SHIGEKI )  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号 : 30145213

増田 真 ( MASUDA, MAKOTO )  
京都大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号 : 10238909

王寺 賢太 ( OHJI, KENTA )  
京都大学・人文科学研究科・准教授  
研究者番号 : 90402809

辻部 大介 ( TSUJIBE, DAISUKE )  
福岡大学・人文学部・准教授  
研究者番号 : 30313183

逸見 龍生 ( HENMI, TATSUO )  
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授  
研究者番号 : 60251782

玉田 敦子 ( TAMADA, ATSUKO )  
中部大学・人文学部共通教育科・准教授  
研究者番号 : 00434580

(3)連携研究者

( )

研究者番号 :